



前県議員

木佐木 ただまさ

日本共産党
見解を紹介します

Profile

・1984年山口県出身
・鶴見区馬場在住・神奈川大
学法学部卒・横浜健康友の
会会長・横浜東民商顧問

県立鶴見養護学校を視察

先週のLINE公式でも動画を紹介しましたが、鶴見区内にある数少ない県立施設でもある県立鶴見養護学校へ県議団と視察に行ってきました。

鶴見養護学校では、知的障がいのある子どもたちが学ぶ場として、小学部、中学部、高等部があり、駒岡にある本校と岸根高校の中にある分教室の2か所で270人近くの子どもたちが学んでいます。

40年以上の歴史がある本校の校舎ですが、お手洗いはキレイにリノベーションされていたり、議員の時に視察で伺った5,6年ほど前には凸凹で子どもたちが転んでしまうとおっしゃっていたグラウンドもきれいに整備されていました。

ただ、神奈川県全体の傾向として生徒数の増加に施設が対応できていないという課題があり、概ね先生1人に対して生徒8人ほどが標準とされているところ、先生1人で10人のクラスもありました。教室がやや狭かったり、教材準備室を転用して教室をつくるなどの対応が必要だったりします。

鶴見養護学校は地域のセンター的機能を果たしており、小中学校の先生などから障がいを持つ生徒の対応の相談やアドバイス、進路相談など子どもに人生に寄り添う大切な役割を担っています。津久井やまゆり園での悲劇を経験した神奈川県は「共に生きる社会かながわ憲章」を作り一人一人の尊厳を守ることを宣言しています。その実践として、子どもたちの学ぶ環境をしっかり充実させていくことに力を入れる県政の実現に力を尽くしたいと思いを強くしました。

動画は右のQRコードからご覧いただけます



私たちが中等部の皆さんの発表を拝見しました

視察時の様子

木佐木ただまさ 日本共産党 前県議員 鶴見区選出

LINE公式 はじめました

登録はこちら

県政ニュースや鶴見区の情報、宣伝予定等を発信します。ご登録をお願いします

ただまさヒストリー

「休園なのを忘れて…」

私の記憶の中で、一番最初の反抗期は保育園の時でした。ある日、母に車で保育園の門の前まで送ってもらい別れた後、一人で門をくぐろうと思ったら、門が閉まってあきません。ふと見上げると何やら休園のお知らせらしき張り紙が…。あわてて車のところまで戻っても、母の影も形もありません。置き去りにされた木佐木少年は、「母さんのバカ、母さんのバカ」と涙を浮かべながら保育園から家まで2~3kmの道のりをかすかな記憶を頼りに走りました。どこかでこの悲劇を回避できなかったのか、なぜこんな仕打ちを受けなければならないのかと母を恨みました。無事家にたどり着くことができ、家なき子になることは回避できました。休園の保育園に置いてけぼりにされたと話した時の母の青ざめた顔を見て、恨みも晴れたのを覚えています。